

移動式クレーンの作業は、適切に ～ 「重大な事故に直結する」を念頭に ～

昨年度、移動式クレーンによる事故が多発しました。大型の移動式クレーンによる事故は、人命を失ったり、社会へ大きな影響を及ぼすことがあります。その結果、社会的責任が問われる事態や建設業全体のイメージダウンへとつながる恐れがあります。**禁止されている作業や操作を行わないようにしましょう。**

運転・玉掛けの資格

- 運転資格は下表の通り、吊り上げ荷重によって法令で定められています。
- 吊り具を用いて荷掛けや荷外しの作業を行うためには、移動式クレーンを運転する資格のほかに下表の通りの玉掛けの資格が必要です。

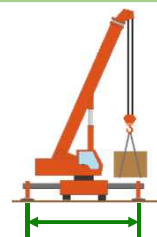
	移動式クレーンの吊り上げ荷重		
	1 t 未満	1 t 以上 5 t 未満	5 t 以上
運転士免許	○	○	○
運転技能講習修了	○	○	×
業務特別教育修了	○	×	×

	吊り上げ荷重	
	1 t 未満	1 t 以上
玉掛け技能講習	○	○
玉掛け業務の特別教育	○	×

- 運転中は、免許証などの必要な書面を携帯しましょう。
- 有資格者を選任して作業を行い、クレーンの機体にオペレーター氏名を表示しましょう。

移動式クレーンの注意・禁止事項

- 定格荷重を超える荷重をかけての使用など、**能力を超えた作業**。
- **アウトリガーは最大張出を原則**とする。最大張出ができない場合は、張り出し状態に応じた吊り上げ能力を確認し、能力に応じた吊り上げ重量を厳守する。
- **軟弱な地盤で、敷板で地盤を養生していない状態での作業**。
- 荷を降下させる最中の急ブレーキ。（衝撃で移動式クレーンが転倒する恐れがあります）
- 荷の斜め吊りや横引き。
- 安全装置の機能停止、無効化や無視。
- 強風時の作業。作業を中止した時は、ジブを固定するなどの措置を講じる。
- **作業範囲内の関係作業員以外の立入り**。
- 荷を吊ったままで運転位置から離脱。エンジンキーをつけたままでの離席。



アウトリガーは
最大張出が原則

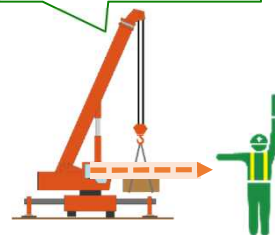


エンジンキーをつけたまま
離席しない

作業方法

- 作業を開始する前に、巻過防止装置、安全装置、ブレーキ、クラッチ、コントローラー機能など、**必要な点検を実施**しましょう。
- オペレーターと合図者は作業の段取りや運搬経路、合図方法を確認しましょう。
- 合図者は所定の標識を装着し、クレーンオペレーターから見えやすい位置で合図をだしましょう。
- 合図者は、荷が落下した場合の退避方向を常に考えて合図を行いましょう。
- **オペレーターは合図者の合図を確認してから操作**しましょう。
- 関係者全員に非常停止の合図を周知し、非常停止の合図を合図者以外がかけた場合でもオペレーターはこれに従いましょう。
- **架空線の近接作業は、監視人を配置**しましょう。

合図を確認して
から操作



退避方向を考え
ながら合図

除草作業中の事故に注意しましょう！

～ 草刈機の安全対策マニュアル（案）の徹底を ～



堤防や道路の除草作業が今年度も本格化していますが、肩掛け式草刈機を用いた際の「飛び石」による第三者への事故が、6月に発生しています。

今一度、安全な使用、除草作業方法を確認しましょう。

準備作業

- 刈刃に異物があたると接触した異物や刈刃の破片が飛散し、負傷事故に繋がる恐れがあります。**空き缶・紐などのごみ、石などは除去**しておきましょう。
- **杭や支柱、ケーブル、側溝の周りは先行して手刈りを行い、目印**をつけておきましょう。
- 刈刃が正しく取り付けられ締め付けられていること、ガタツキがないこと、飛散防止カバーが所定の位置に取り付けられていることを確認しましょう。



作業の服装

- 刈刃の破片や石などの飛散によって、重篤な事故となる場合があります。**草刈り作業員及び防護作業員は保護メガネまたはフェイスガード、ヘルメット、すね当てなどを着用して作業**しましょう。
- 傾斜地での作業は滑落・転倒のおそれがあるため、スパイク型など滑り止め機能がついた安全靴を着用するようにしましょう。
- 騒音と振動が作業員の疲労を増大させます。耳栓やゴーグル、振動軽減手袋を着用するようにしましょう。
- リラックスした姿勢で刃が地面から数センチの高さで平行になるように刈払機の肩掛ベルトを調整しましょう。

- 保護メガネ・フェイスガード
- 耳栓・ゴーグル
- すね当て
- 振動軽減手袋
- 安全靴を着用



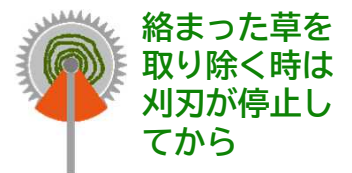
飛び石対策

- 飛び石対策を講じていても、思わぬ方向に飛んで被害が発生することがあります。広範囲ネットやL形防護ネットなど、**現場状況に応じた防護ネットを使用**しましょう。
- 作業前には、草刈り作業員と防護作業員で刈刃の方向、飛び石のしやすい方向、進行方向、ネットの設置方法、合図方法の打合せを行いましょう。
- 刈払機が跳ねた石が縁石やガードレールに当たって跳ね返り、飛散防止ネットを超えることがあります。**跳ね返りが予想される箇所は手刈りで除草**しましょう。



作業中

- 刈刃や飛散防止カバーに草や異物が詰まった場合は、**必ずエンジンを止め、刃の回転が止まっていることを確認してから取り除きましょう**。
- 地面ギリギリで刈刃を当てると、除去しきれない石が飛ぶ危険性や、地面に接触してキックバックが起こることがあります。キックバックが起こらず、身体に負担の少ない位置で作業をしましょう。
- **移動する時には必ずエンジンを停止**しましょう。



草刈り機の安全対策マニュアル（案）については、近畿地方整備局HPをご覧ください。

①ハンドガイド式草刈機の安全対策マニュアル（案）

https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/jigyousya/jikoboushi/qgl8vl0000004scc-att/R3.2_handogaido.pdf

②肩掛け式草刈機の安全対策マニュアル（案）

https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/jigyousya/jikoboushi/qgl8vl0000004scc-att/R3.2_katake.pdf